

三島 喜吉 議員 … 2 件の一般質問



新幹線建設は、まちづくりの大きなポイント

町長：先進地事例を参考に進めていく

三島

北海道新幹線の全線開通が2030年と、あと14年余りに迫ってきている。

①高架化の計画変更申請をしていると聞いたが、認可に向けての今後のスケジュールや動向について伺う。

②俱知安市街地地区を走るルートが、ほぼ現実のものとして想定されてきている。

今後、俱知安のまちづくりにとっても大きなポイントになると思うので、そこら辺の町長の考えを伺う。

町長

①北海道新幹線の新函館北斗〜札幌間は、平成24年度に事業認可され、俱知安駅周辺は掘割式半地下構造となっている。

しかし、新幹線が町を東西に分離するとともに、新幹線と在来線により孤立する集落が見込まれることから、高架式への形式変更を要望してきた。

現在は、認可変更申請の手続中であり、国からの変更許可時期は未定である。

②町が想定する新幹線ルートとなる西4丁目通り、北7条西10号西側の沿線には、新幹線建設のため移転される方々が多数発生すると認識している。

ただし、高架形式での詳細なルートや屋根形式落雪等を考慮した余裕幅管理幅も示されていない状態では、想定される戸数を示すことができないことをご理解願う。

また、移転者には再度町内への居住を進めるため、都市計画・まちづくりとして住居建設を誘導する等さまざまな方法があるので、まずは最適な手法など先進地の事例も参考にしながら、議論を進めたいと考えている。

尻別川河川整備計画

三島

昭和42年に1級河川として指定された尻別川は、本町の中心部を流れる河川である。

昭和36年・37年に大洪水が起き、農業地帯に大きな被害があった。

①100年というスパン

で災害を想定した整備計画が望まれているが、尻別川の河川整備計画の進捗状況はどうなっているか、伺う。

②河畔林の伐採計画があったが、計画が中止になった経緯がある。

地域住民から、水害の危険性回避のため、河畔林の整備を求める声があがっている。

河川管理者と一体となった河川整備計画を進めてもらいたい観点から町長の考えを伺う。

町長

①平成27年度中に尻別川圏域河川整備計画案が作成され、国へ許可申請を行う予定だったが、その後の状況について、小樽建設管理部真狩出張所に確認したところ、北海道庁河川砂防課より小樽建設管理部真狩出張所に対し、添付資料や図面の追加や修正などの依頼があり、現在、その作業に当たっているところ、計画案の作成を年内には終えたいとのこと。

②河畔林の整備は、整備計画原案の策定段階で、

地域住民や河川管理者との意見交換により、河畔林や河道樹木を保全する場所を設定しているが、河道の掘削、護岸の設置、堤防の整備などにより流下断面を確保する計画になっており、計画原案の維持管理において、環境や景観に配慮しながら洪水の安全な流下に支障となる場合には、必要に応じて調査や有識者等の助言を得るなどして、伐採など適切な管理を実施するとなっている。

本町としては、河川整備計画の早期策定の働きかけを行っている。また、整備要望について、小樽建設管理部との社会資本整備推進会議において意見交換するとともに、随時、小樽建設管理部真狩出張所と協議をし、自然環境の保全はもろろん自然災害における地域住民の生命及び安全を守り、安心して暮らせる河川であるよう河川管理者である北海道に要請し続けていく。



雨により増水した尻別川